

# 社会教育委員ニューズレター 第9号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会  
事務局 佐賀県民環境部まなび課内

## 県社教委連第1回役員会

5月10日、年度初めの役員会を県庁で開催しました。

協議事項については、令和元年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員(案)、平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度佐賀県社会教育委員連絡協議会活動方針案、令和元年度事業計画(案)及び収支予算(案)について協議し、総会にて採決し承認を得ることが決められました。

また、「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった委員として市町から推薦された5名を表彰することが決定されました。報告事項については、平成30年度活動方針取組状況長結果についての報告がありました。

## 全国社会教育委員連合総会

5月17日、東京都で開催されました。

通常の事業報告・決算報告、第61回全国大会兵庫大会等の議案に加え、会費の改定案が可決され、令和2年度より、これまでの7万円から10万円に改訂されることになりました。当法人の財政は、10年ほどにわたり、赤字経営を続けてきており、事務局員の経費見直し等でのいできたことが報告されました。

今回の会費改訂で来再来年度直ちに資金繰りができなくなる事態は一時的に回避される可能性ができましたが、単年度での収支均衡を目指した方策であり、手持ち資金がない状況で、社会的信用が確保できるかという問題も残されていることも付け加えられました。

## 令和元年度佐賀県社会教育委員連絡協議会総会及び基礎研修会

5月21日、佐賀市立図書館で開催しました。

開会行事後に令和元年度社会教育委員連絡協議会表彰が行われました。

### ○県社教委連表彰

昨年度から創設した標記表彰において、5名の方を表彰しました。

\*\*\*\*\*  
\*受賞おめでとうございます。\*

- 江北町 石倉 秀郷氏(15年)
  - 白石町 大串 京子氏(13年)
  - 小城市 小柳 容子氏(12年)
  - 鳥栖市 末次 晃氏(15年)
  - 太良町 坪田 順子氏(11年)
- ( )は、社会教育委員在任の期間

### 【表彰基準】

社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった者



左から 石倉氏 大串氏 小柳氏 末次氏 坪田氏  
(代理) (代理) (代理)

### 令和元年度 佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役職	氏名	所属
会長	上野 景三	佐城(佐賀市)
副会長	三苫 紀美子	県社会教育委員
副会長	重松 規昌	三神(上峰町)
理事	谷口 繁美	唐松(唐津市)
理事	辻田 正信	藤津(嬉野市)
理事	川崎 富雄	杵西(白石町)
監事	中村 夕三子	藤津(鹿島市)
監事	森田 浩文	三神(吉野ヶ里町)

○総会

議事

第1号議案

平成30年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について

第2号議案

令和元年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

第3号議案

令和元年度活動方針案について

・今年度の活動方針案については、次のとおり承認されました。

《令和元年度活動方針》

一 第41回全国公民館研究集会 第49回九州ブロック社会教育研究大会第70回九州地区公民館研究大会佐賀大会を成功させよう。

二 合同佐賀大会テーマ「社会教育の隘路を拓く」に沿い、本大会を起点とする大会と捉えて、さらに連携の輪を広げて活動を充実させよう。

三 ニューズレターを年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。

四 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

五 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

第4号議案

令和元年度事業計画並びに予算について

※各議案は、举手多数により承認されました。

○基礎研修会

(一)佐賀県社会教育委員実践研修会

会・佐賀県公民館研究大会

合同研修会 報告

・8月の合同佐賀大会を見据えて、社会教育委員、公民館関係者等が一堂に会した研修会を実施し、会場満席の300人の参加を得て、盛会であったことが報告されました。また、合同佐賀大会にむけた取り組みのエネルギーこそが、私たちの目の前にある課題解決をすすめていく力になることを確信しています。

(二)第41回全国公民館研究集会

第49回九州ブロック社会教育研究大会第70回九州地区

公民館研究大会 佐賀大会に

向けて

・合同佐賀大会事務局より、開催決定までの経緯、実績報告、今後の計画等の報告、続いて大会開催に係る概要説明がありました。

一日目の全体会では、アトラクション、開会行事、シンポジウムがあります。

二日目の分科会では、九州各県の素晴らしい取り組みの発表が行われます。

(二) シンポジウム

「合同佐賀大会に向けて

—期待すること、夢を語ろう—

コーディネーター

上野 景三 会長

シンポジスト

県社会教育委員、地婦連会長

三苦紀美子氏

大町町社会教育委員

合同佐賀大会事例発表者、

大西奈々美 氏

小城市社会教育委員

眞子 雅允 氏

・シンポジウムでは、合同佐賀大会「第2分科会・社会教育の手法による地域づくり」事例発表者である大西社会教育委員より「大町町煉瓦館を続けてみれば」発表概要の報告がありました。

また、三苦社会教育委員、眞子社会教育委員からは、現在の活動状況報告や合同佐賀大会に期待すること等を会場の参加者とともに討議しました。

合同佐賀大会

「2000人の参加を目指し、大会の成功と社会教育の未来を拓きましょう。」

合同佐賀大会実行委員会委員長

上野 景三



「社会教育委員の皆様方には、地域における社会教育の在り方等についてそれぞれのお立場から、生涯学習・社会教育の推進や、人づくり・地域づくりのためにご尽力いただいていますことに心より敬意を表します。

さて、昨年度文部科学省において機構改革があり、社会教育や公民館がこれからのような道を辿ることになるのか、心配や不安感をもたれている方も少なくないのではないのでしょうか。

一方で地域では、人口減少や高齢者の見守り、子どもの虐待・ネグレクト、安全や防災対策、といった様々な地域課題が山積しています。社会教育委員の果たすべき役割はこれまでに以上に大きくなっていると思います。

今年の8月29日、30日の「第41回全国公民館研究集会 第49回九州ブロック社会教育研究大会 第70回九州地区公民館研究大会 佐賀大会（合同佐賀大会）」の大会テーマは、「社会教育や公民館の隘路を拓く」です。「隘路」とは、狭い道、または困難や難点といった意味を持っています。いままさに、社会教育と公民館は「隘路」の真っ只中にいるといっても過言ではないでしょう。私たちは、この隘路を切り開いていかなければなりません。

合同佐賀大会に向けて、佐賀県社会教育委員連絡協議会は佐賀県公民館連合会と一緒に、足掛け3年に渡って準備を進めてきました。また、今年1月の社会教育委員実践研修会では、合同の研修会を開催し300人の参加を得て成功させました。この大会にむ

けた取り組みのエネルギーこそが、私どもの目の前にある「隘路」を拓く力になることと信じております。

大会趣旨にありますように、社会教育の立役者である社会教育委員と公民館とが、共通のテーマ・共通のテーブルを介して、学校・家庭を含めた活力ある地域コミュニティの再生を一体となつて推進する方策を探る絶好の機会にしたいと考えています。

全体会では、開会行事、シンポジウムを計画しています。分科会では、九州各県の素晴らしい取組みの発表を楽しみにしているところです。合同佐賀大会の経験を活かし、私たちはこれから何ができるのか、何をすべきか…の答えを見出していきたいと考えています。

8月の合同佐賀大会まであまり時間はありませんが、2000人の参加を目指し大会の成功と今後の社会教育の未来を拓くために、私たち社会教育委員の力をあわせてまいりましょう。どうか、是非お力をお貸しください。九州各県からたくさんの方々がおみえになります。私ども佐賀県からも一

人でも多くの参加者を誘って大会を成功させていきましょう。」

**第61回全国社会教育研究大会（兵庫大会） 概要予告**

**大会趣旨概要**

・人生100年時代、多様な人々の価値観を認め合いながら幸せに生きるとともに、一人一人が主体的に参画できる社会を実現するため、社会教育に対する期待は大きくなっています。

このような中、兵庫大会では、次のような大会スローガン・研究主題等を掲げて実施されます。

- 大会スローガン 「学びと実践の収穫祭」
- 「ここく豊穰 in ひょうご」
- 研究主題 「多様性を認め合う、豊かな地域社会のための社会教育の実践」

- 期日 令和元年10月24日（木） 25日（金） ※23日理事会・事務局会議
- 会場 神戸ポートピアホテル・
- ポートピアホール

**「記念講演」**

『わかりあえないことから』  
「多文化共生を目指す演劇教育」  
・劇作家・演出家 平田オリザ氏  
※ご参加希望の方は、県社教委連

**「シリーズ」我が市町の社会教育委員活動（Ⅶ）最終回**

**我が市町の社会教育委員活動**

「鹿島市少年の船事業の歩み」  
鹿島市 社会教育委員  
竹下 勇

**記念事業としてスタート**

鹿島市少年の船事業は、昭和60年に鹿島市制施行30周年記念事業の一環としてスタートし、平成30年度（第34回）事業を終え参加者は、延二、三五一名にのぼります。

この事業は、30周年記念事業の中でも目玉の事業であり、社会教育委員が中心となり、社会教育関係団体と実行委員会を組織し、主催するものであります。本研修先の沖繩は、今ほど手軽に行ける場所ではなく、子供たちの交流の

場や平和学習の場所としても最適な場所でありました。

**支える組織**

組織は、実行委員会と派遣団の2つに分かれています。実行委員会は、事業を実施するために下支えするもので、社会教育関係団体の代表で組織しています。もう一つは、実際沖縄での本研修を率いる派遣団です。派遣団は、団長・副団長等は、行政のトップクラスや校長が務め、対外的役割を果たし、子供たちを取りまとめ指導する部署には、大学生や若いスタッフを配置しました。

本研修前の事前研修では、班行動を通じて団体行動や仲間づくりを行い、団体生活の基本を身につけます。

実行委員会では、学校やPTAを通じての募集活動や企業へ協賛金の依頼をするなど自分たちの出来ることを分担していました。

募集人員は、費用の面からバス満杯の人数がベストですが、スタートから数年は一二〇名の参加者があり、応募が多い年は抽選をした時もありました。

**継続のむずかしさ**

どの組織にも言えることですが、後継者はなかなか出来てこないのが現状です。形は引き継ぐことができても、気持ちまでは、引き継ぐのは困難であります。これはマンネリ化を防ぐいい面でもあり、行事消化に陥る悪い面でもあります。12年を過ぎたころから応募する子供が少なくなり、特に中学生の参加が減少してきました。

第16回から行き先を北海道に変更しましたが、大きく参加者が増えることにはつながりませんでした。その為、沖縄での平和学習は捨てがたいという声もあり、再び行き先を沖縄に戻し、移動手段は、船から飛行機に変更しました。

名称も、「鹿島少年の船」から「鹿島市むつごろう探検隊」という変遷を経ましたが、平成30年度（第34回）には、子どもたちの参加が二一名となり、小学四年の女子が大多数を占めました。このことを受け一度、この事業を休止し検討することとなりました。

**新しい時代『令和』をむかえ**

令和元年度は「鹿島ドリームシップ事業」を休止し、根本的に考



嘉数子ども会との交流会にて

えてみようということになりました。社会教育的体験事業の原点に立ちこの事業を廃止するにしても、青少年に対する体験型の研修が重要だとするならば、今後、何をどう取り組むのか、組み上げることが必要であると考えます。

社会教育委員が各公民館や社会教育団体・類似団体で行われている社会教育的事業を洗い出し、コーディネーターの役割を担い教育委員会と一緒に一つの形にしていくべきだと思います。

今の実態を憂いて多くの評論家と同じような問題を挙げていますが、この辺で、『実践に移せるよう具体的に一歩前へ進みたい。』教育は常に一年生を育てる必要があるのでしょうか。常に一年生

と伴に歩み、その人たちが経験をつみ上級生になれば、次の一年生と伴に歩む必要があるでしょう。私は、いつの間にか子供たちと一緒に上級生になっていたようです。つまり理屈で事業を考えてしまっていました。

30回を超えた事業でも1回目の取り組みと同じような気持ちで考える必要があるようです。

**我が市町の社会教育委員活動**

「嬉野市の社会教育委員活動」  
嬉野市文化・スポーツ振興課  
東 賢太郎

**嬉野市の現状**

嬉野市は2022年の九州新幹線西九州ルート開業に向け、今年2月に新駅の建設が着工し、6月には駅周辺地区に嬉野医療センターが移転・開院するなど、新幹線開業への期待が日に日に高まっています。

**社会教育委員の構成**

嬉野市社会教育委員会は、保護司会、小中学校校長会、民生委員・児童委員、子ども会連絡協議会等

の団体からの代表や、学識経験者など9名で構成しています。

社会教育委員会は例年5月と11月の年2回開催しており、年間の活動計画などについて協議しています。

**教育委員との懇談会**

平成29年5月から教育委員と社会教育委員の懇談会を開催しており、現在までに計5回行われています。懇談会までの流れは、教育委員会および社会教育委員会の定例会が別々の会議室で開催された後、一つの会議室に集まり行っています。

開催の発端は、現教育長である杉崎士郎氏の意向により始まりました。

平成27年度に策定された「嬉野市教育基本計画」の教育委員会の運営項目においても「社会教育委員との懇談会の実施」を明記いただいています。

**懇談会の内容**

懇談会の内容は、教育長のあいさつの後、それぞれの担当課長から実施している事業内容等について説明し、その後、質疑応答を行っています。

なお、会の司会進行については、各委員会の代表者に交互にさせていただいています。

今年5月に開催された懇談会では、社会教育委員から「小中学校生徒数数の推移見込み」や「教員の働き方改革」などについての質疑がありました。

嬉野市社会教育委員長の辻田氏から「教員の業務量は増すばかりで大変危惧している。社会教育委員会としても、教員の負担軽減のために地域コミュニティと連携した活動を行いたいと考えている。子どもの成育のために社会が協力し、地域で育んでいきたい」と申されました。

会の時間は1時間以内を予定していますが、活発な意見・提案をしていただくため、毎回多くの時間を費やしており、教育長からも「年2回の開催では、時間が足りないのでは、開催数を増やしたい」との意見をいただいております。懇談会は今後も、教育委員会・社会教育委員会の定例会にあわせて開催予定です。

社会教育委員の皆様からも、今後も継続して開催したいとの意向

をいただいています。

**我が市町の社会教育委員活動**

「卵が先か、鶏が先か」

大町町教育委員会事務局

岩永 憲二郎

社会教育委員の人選は言うまでもなく文部科学省令で定められた参酌すべき事項によるが、ではそれに該当する人物を他市町はどのように探されているだろうか。

本町ではそれまで社会教育団体の代表、つまり「団体」で選んでいたものを、平成二十八年度からはそのような団体で活動が続いている「人」にお願いすることにした。結果、人数も厳選され、学校長や学識経験者の他に、和太鼓の団体、読み語りのボランティア団体、子どもガイドの育成母体の団体などから、子供に関わる活動を長く続けている方に委員をお願いすることになった。

この内、夏の合同大会の発表者は子どもガイド活動の代表者であり、活動の概要は「大町煉瓦館の

取り組み」として先の総会の折に発表機会を得たので、ここでは他の方々活動を紹介したい。



大町町煉瓦館での活動

一人は子供達との和太鼓の団体「聖太鼓の会」の代表である。平成二年に成人の創作和太鼓の団体として発足したが、現在は小中学生を中心としたメンバーで各種イベントでの演奏や大会への出場など精力的に活動され、メンバーは礼儀正しく返事や挨拶がよくできると評価も高い。青少年健全育成県民会議の表彰を受けられたり、全国大会に出場されたりと、町のPRのみならず青少年育成でも活躍されている。

もうお一人は小中学生への読み聞かせ活動を長く続けられている読書グループ「おはなし宅急便」

の代表で、学校で月2回の定期的な朝の読み聞かせや、読書イベントへの協力など、その活動には長い実績がある。読み聞かせの人数の割り振りや選書など自主的な運営が確立しており、その点から学校運営協議会委員など他の委員もお引き受けいただいて、子供たちに関わる様々な活動と行政との橋渡し役として大きな役割を担っていただいている。

いずれの方も、社会教育委員をお願いするにあたり「何をすればよいのか」と問われたので、担当者はその都度「今までの活動を継続し、その立場からの意見を頂きたい」と答えてきた。つまり参酌すべき事項に記された「家庭教育の向上に資する活動を行う者」を本町では地域・学校・家庭に関わりながら子供たちの育成につながる活動をしている方と解釈したということである。

行政の中にも、委員自身にも、社会教育委員になったら何か特別なことをしなければという意識は強い。現状を調査し、会議で発言し、諮問に答申するなど社会教育委員としての重要な活動はあるが、

その一方できつかけとなった活動を継続していただくことが、そのまま社会教育の振興につながるという思いも強い。

社会教育委員になったから特別な活動をするのか、特別な活動をしてきたから社会教育委員になったのか、筆者自身確たる答えを持ち得ないでいる。拙稿タイトルに対し関係諸賢の御意見を賜りたい。

**我が市町の社会教育委員活動**

吉野ヶ里町 社会教育課  
野中 悠佑

**吉野ヶ里町の現状**

吉野ヶ里町は、平成18年に三田川町と東脊振村が合併し誕生しました。人口は約1万6千人で、吉野ヶ里遺跡をはじめとする貴重な歴史遺産や、豊かな自然環境に恵まれた住みよい町です。

今後町政が果たすべき役割はますます多様化し、また地方分権の推進により自治体独自の施策を展開しなければならぬなか、住民や多方面の分野の主体から広く

意見を聴き、特色ある本町のまちづくりを進めていく必要があります。

**社会教育委員の構成**

吉野ヶ里町の社会教育委員は、任期2年で、吉野ヶ里町公民館運営審議会委員を兼務しております。学校教育関係からは、小・中学校の校長が2名。社会教育関係からは、区長会、子どもクラブ連絡協議会、女性会、スポーツ推進委員会、体育協会、文化財保護審議会、老人クラブ連合会より、それぞれ1名ずつで計7名。学識経験者として、教育委員より1名。合計10名で構成されています。

**社会教育委員の活動状況**

吉野ヶ里町社会教育課では、地域の大人と子供が互いに知り合い、交流を深められる場の創出を目的とした「大人としゃべり場」を、平成29年度より実施しております。社会教育委員としても積極的に参加し、最近の子供たちの思考を知る機会を得ると共に、世代を超えた人と人との繋がりを深め、皆で支えあう住みよいまちづくりに向けて今後も取り組みを続けていく所存です。



大人としゃべり場

**我が市町の社会教育委員活動**  
「協力ありがとうございます！」  
「今回を持ちまして、連載を終了させていただきます。」

次回(10号)の執筆担当は、佐賀県社会教育委員連絡協議会事務局です。合同佐賀大会を終えて「合同佐賀大会概要報告」、参加された社会教育委員からの寄稿・投稿等を計画しています。

テーマは、「仮合同佐賀大会に参加して」としています。本年10月末までに原稿送付をお願いいたします。

体裁…A4半ページから1ページ程度、様式等は自由(手書き・ワード等) 問い合わせ先…事務局  
TEL: 0952(25)7313